

平成 27 年 10 月定例会

教育委員会定例会会議録

書記 菊池 亮

書記 鈴木 和賀子

塩竈市教育委員会定例会会議録

◆日 時 平成 27 年 10 月 30 日（金） 午後 1 時 00 分～午後 1 時 32 分

◆場 所 ふれあいエस्प塩竈 ミーティングルーム

◆出席委員

委 員 長	柴田 仁市郎	委員長職務代行者	太田 忍
委 員	池野 暢子	委 員	山田 達磨
教 育 長	高橋 睦麿		

◆事務局

教 育 部 長	菅原 靖彦	教育総務課長	渡辺 常幸
学校 教育 課長	高橋 義孝	生涯学習課長	本田 幹枝
市民交流センター館長	伊東 英二	教育総務係長	菊池 亮
教育総務課専門主査	鈴木 和賀子		

◆定例会次第

- 1 開会
- 2 前回会議録承認
- 3 会議録署名委員の指名
- 4 教育長報告
 - ① 第 4 回管内教育長会議について
- 5 教育部長報告
 - ① 塩竈市震災復興計画の関連事業等について
 - ② 市議会定例会等について
- 6 閉会

1 開会 午後1時

2 前回会議録承認

太田委員から報告、承認

3 会議録署名委員の指名

池野委員と高橋教育長を指名

4 教育長報告

(1) 高橋教育長から、以下のことについて報告

①第4回管内教育長会議について

〔主な質疑〕

- ・池野委員 教員採用の際、精神疾患があるかないか事前にわからないものか。
- ・高橋教育長 適性検査は行うがそれで不採用となるのは1,000名に1人いるかないかで、事前に見つけることは難しい。今は、受験者が適性検査への対策もしている。また、最終面接の際に見つける方法として、例えば、精神科の医師が面接をするなど考えられたが、それだけで不採用にすることは難しいとの結論となった。
- ・柴田委員長 指導力不足教員は、塩竈には該当者がいなかったが、県全体でどれぐらい人数がいるのか。
- ・高橋教育長 県全体で数人、一番多い時で7、8人である。しかし、長期特別研修は強制ではなく本人が受講を希望しないと受講対象とはならないため、実際に受講を要する教諭は、かなりの数がいる。
- ・柴田委員長 評価は校長が行うのか。
- ・高橋教育長 校長が行うが、校長だけではなかなか難しいので市町村教育委員会や教育事務所でバックアップをして、指導力不足教諭に研修を受けるよう指導している。
- ・柴田委員長 研修を受けて、また現場で正常な状態に戻る比率はどのようになっているか。
- ・高橋教育長 基本的には現場に戻すための研修なので、最近はほとんど戻っている。以前は、辞める教員やなかには研修を2回受ける教員もいた。
- ・柴田委員長 財務省の教職員の定数削減の方針はどのような状況か。
- ・高橋教育長 定数は削減する方向のようである。しかし、文部科学省としては教員として定数を確保するのは難しい事もあって、教員が教員本来の仕事に専念できる『チーム学校』という方針を立て、カウンセラー等の専門職員を現場に派遣するような方針で人員を確保しようとしているようである。現在の学校は、子どもたちの精神疾患も増えていて手のかかる子どもたちが増えており人員は不足している。

- ・柴田委員長 教育だけは、他の仕事と同じように効率化などはしないでほしい。
- ・太田委員 学力向上研究について第二小学校に算数に取り組んでいるとなっているが、これはクラスが選ばれてそのクラスだけが取り組むのかそれとも学校全体か。
- ・高橋教育長 学校全体である。算数を切り口に学力向上の研究をする。1年生から6年生まで学校全体として算数の研究に取り組んでいる。
- ・太田委員 以前フリー参観を見せて頂いた時とてもおもしろかった。フリーなので構えない、何人かのお母さんもいた。

5 部長報告

(1) 菅原部長から、以下のことについて報告

①塩竈市震災復興計画の関連事業等について

②市議会定例会等について

〔主な質疑〕

- ・柴田委員長 議会での点検評価に対するの評価はよいように思う。
- ・高橋教育長 教育委員会の点検評価の課題は、自分の事を自分で評価するようになるので、できれば第三者にしてほしい。点検評価員は、2人いるが、すべての面について見て、評価しているわけではないので、その辺を考えて行きたい。どうしても、視察の時に見た授業、学校、施設について多く書かれているので、学校教育や生涯学習、全体を見てそれぞれにコメントが出てこない。
- ・柴田委員長 評価する委員会みたいなものを設置するという事なのか。
- ・高橋教育長 まだ、手法についてはこれからである。
- ・菅原教育部長 法では、教育委員会自らが評価し、それに加えて第三者の意見も得るように明記されている。その点は、履行されているので、その上で評価する項目のたて方に工夫の余地があると考えている。
- ・高橋教育長 評価の観点が明確すぎて網羅していないということもある。例えば、学力の高まりについてだが、平均正答率が県平均より5ポイント上回るという目標がある。しかし、学力というのは学力学習状況調査の結果だけではない。それも他の学力の高まりを示していく必要がある。その辺も見直していきたい。

それぞれの事業でねらいとするところがあり、そのところを明記して、それがどうなったのかを記載して、評価して点検評価に結び付けていこうというのが次の課題である。

《會議録署名委員》

3番委員

(池野委員)

5番委員

(高橋教育長)